

三平代表コラム NO. 2

「介護人材の確保」

少子高齢化が急速に進む中で、介護人材の確保は深刻な課題となっている。団塊の世代が75歳以上となってくる2025年度には、介護人材は、237～249万人が必要となると見込まれており、毎年6.8～7.7万人の人材を確保していく必要がある。

そこで、具体的な新規参入の促進と定着を図る取り組みが急務とされており、離職率の高さ、低賃金などの課題を踏まえ、以下の視点での取り組みを推進していく必要がある。

① 参入の促進

- ・学校、学生に対して、介護職のイメージアップを図る取り組みの推進
- ・地域の生活支援（高齢者の見守り・配食など）の担い手を増やす

② キャリアパスの確立

- ・職員に対するキャリアアップが図れるよう研修の受講支援
- ・資質向上を図るための人材養成の体系を整理し、介護福祉のキャリアパスの確立

③ 職場環境の整備・改善

- ・介護職員の負担軽減を図るため、介護ロボットの開発促進
- ・介護福祉機器の導入促進
- ・ICTを活用した業務の効率化

④ 処遇改善

- ・キャリアパスに合わせた賃金体系の整備
- ・事業主の人材マネジメントの意識改革

多くの人が参入し、定着するためには魅力的な職業と多くの人に感じられることが大切である。そのための様々な取り組みがあるが、いずれにしても企業だけではなく、行政、学校、民間のサポート、地域社会などが一体となって取り組まなければならない課題である。今後、医療と介護は地域社会において連携を図って、一体的に取り組んでいくうえで介護人材の確保は、重要政策課題として考えていかなければならない。